

4. 丹波黒大豆エダマメ夏期連続出荷のための短日処理（技術）			
[要約] 丹波黒大豆エダマメのハウス栽培において4月10日及び30日播種でそれぞれ育苗期間に20日間短日処理し、さらに本圃で開花初期から20日間短日処理すると、4月10日播種では7月中旬から、4月30日播種では8月上旬から出荷できる。			
研究室名	中山間農業研究室	連絡先	0868-57-2758

[背景・ねらい]

丹波黒大豆のエダマメは食味の良いことで知られるが、収穫時期が10月上旬となり、需要の多い夏季からはずれるために有利な販売ができない。また、3月上旬に播種し、開花初期に5日間短日処理すると6月下旬から7月上旬に収穫できるが、この時期以降引き続いて出荷できる作型は確立されていない。そこで、7月中旬以降の出荷を可能にするため2播種期について育苗期と本圃における短日処理の組み合わせによる早期出荷を検討する。

[成果の概要・特徴]

1. 4月10日まきでは育苗期に20日間、本圃で開花初期から20日間短日処理すると7月中旬から収穫できた。収量は8月上旬までに514kg得られた（表1）。
2. 4月30日まきでは育苗期に20日間、本圃で開花初期から20日間短日処理すると8月上旬から収穫できた。収量は8月中旬までに578kg得られた（表1）。

以上の結果、4月10日、4月30日に播種し、それぞれ育苗期および本圃における開花初期からの短日処理を組み合わせれば500kg以上収穫できることが明らかとなり、7月中旬から8月中旬にかけて連続出荷が期待できる。

[成果の活用面・留意点]

1. 育苗は最低夜温10℃以上で行う。
2. 本圃は無加温ハウス栽培とし、気温の低下する日はサイドを降ろし保温する。
3. 育苗期の短日処理法は、厚さ0.05mmの透明ポリフィルムの上に厚さ0.05mmのシルバーポリフィルムを重ねてトンネル被覆する。被覆は午後5時～翌朝8時まで、出芽後から20日間連続して処理し、処理後定植する。
4. 本圃における短日処理法は厚さ0.05mmのシルバーポリフィルムで被覆する。被覆時間は午後5時～翌朝8時まで、開花初期から20日間実施する。
5. 栽植密度は畝幅120cm、株間20cm、1か所1本の2条植え（8,333株/10a）とする。

表1 播種期、育苗期と本圃における短日処理日数が収穫期及び収量に及ぼす影響

播種日 (月/日)	育苗時の短 日処理日数	本圃の短日 処理日数	旬別収量 (kg/10a)										7, 8月収量 (kg/10a)			
			7中	7下	8上	8中	8下	9上	9中	9下	10上	10中		10下		
4/10	20	20	261	129	110	14										514
	0	0								84	352	312	9	0		
4/30	20	20			458	107	13									578
	0	0									315	465	12	0		

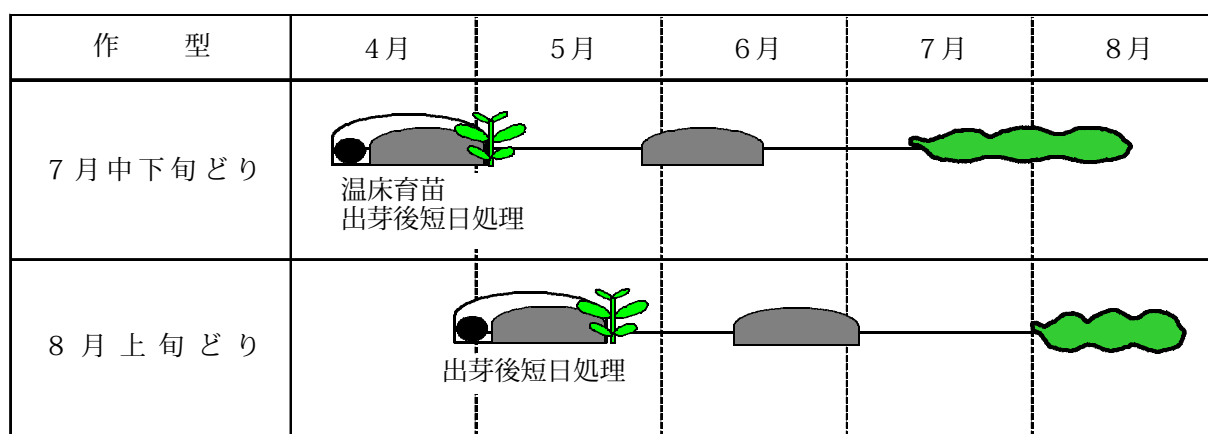


図1 丹波黒大豆エダマメの早どり栽培

凡例：  育苗ハウス ● 播種  短日処理  定植  収穫

[その他]

試験研究課題・事業名：丹波黒大豆エダマメの早どり栽培技術の確立

予算区分：県単（緊急対策）

研究期間：平成15年度

関連情報等：平成13年度主要成果「丹波黒大豆エダマメの短期間の短日処理による早期出荷」

農業総合センター技術情報19「黒大豆えだまめの早期（7月）出荷」